楽しかった音楽の時間

ここのところ学校の「音楽の時間」を思い出している。私は家から 10 分程の所に隣接して建っている区立の小・中学校に通ったが、音楽の時間は面白く楽しかった。

まず小学校では、いつも女性らしいスーツを着てハイヒールを履いている 28 歳の美人先生で、眼鏡の奥はいつも 100%笑顔。その先生に会えること自体が楽しかった。教室はもちろん防音のために二重扉になっているが、材質が木で良かった。そして歌はヨーロッパ民謡を主に歌った。「カラヤンが世界の最高峰です、いいですね！」という念押しがあったくらいなので、教科書記載の必修日本の歌は猛スピードで通り過ぎる。 聞くところによると隣の地区の同学年は日本の歌を中心にやっているという。だから同い年でも感覚に差ができる。特に私たちのクラスは先生曰く進みが早かったので、既定の教えが終わって時間が余ったときは「＋α」の楽しい知識もいただいた。

そして発表会の練習時。私は小太鼓が好きなのでそれをやらせてもらったが、自分のパートを覚えてしまうと中太鼓のところへ行き、それも覚えてしまうと大太鼓の所へ行き、結局全部打ち終わっておしゃべりしていたら、男子が血相を変えて飛んできた。「おい、隣のクラスまだやっているんだよ！厳しい先生でベートーヴェンみたいに髪を振り乱して指揮していてサ、納得いかないってまだ 6 小節目」「え！それじゃ今日中に終わらないじゃん」因みにわが優しく美しき先生は、演奏でつまずくと同じ人間とは思えないほどの鬼の形相に変化する。だから「真剣にやる」大切さを学んだ。

そして中学へ入ると、音楽室の第一扉は重い鉄である。過去に指を挟んだ生徒がいたらしく、厳重な注意の張り紙があった。今度は男の先生である。そして最初の試験が「作曲」「試験では五線譜しか渡しませんからね。持ち込みなしの代わりに事前に考えてきてもいいです」そしてある時は「はい、今日はオーケストラ演奏鑑賞です。トイレには行けませんからそのつもりで。外から鍵をかけますが私は近くにいます」「まさかァ」と男子が確かめに行って「おい！ほ…本当に鍵がかかっている…」

またあるときは時間になっても先生が来ない。男子が職員室へ聞きに行く。「先生はきょう来ません」聞くところによると自分のピアノのリサイタルだとか。「マジかよ、生徒に一言ぐらい断れよ。どうしてきょうなのサ、俺たちの授業があるってわかっているんだろう？」「何でも会場がきょうと 3 か月先しか空いていなかったんだって。3 か月待つのは厭だからきょうにしたんだってサ」学校側も鷹揚だが我々も素直である。その時間は誰も遊ばずに全員が音楽の自習をした。それから日は流れ、また先生が来ない。その時は前回の注意があったのか音大の大学院から代わりにバリトンの先生が来た。ところが籤引きの如くランダムに開いた教科書の頁に載っている歌を、矢継ぎ早に指名して歌わせる。「まだ習っていないから、知らないよ～」そんなのお構いなし。したがって幾人かがソロで歌った曲はバラバラ。先生ご満悦、生徒唖然。

そして卒業生を送る歌のリハーサル。友達に誘われて体育館へ行くと、エンドレステープみたいな練習だから入り口で譜面を渡され即参加。「何これ？聞いたことないけれど。変な歌…」と口走る私に「しーっ！なんでも有名な詩人の詩に、先生が曲を付けたんだって！」壇上を見ると先生が自分の演奏に陶酔中。この個性も面白かった。

この楽しい教育のお蔭か私の個性か、わが CD の棚は外国の歌曲ばかり。その中に外国人が日本語で歌うものと、日本人が外国語で歌うものが混じっている。(2013.7.12)